

校長先生の言葉は皆さんの心に届いていますか？先週から、文字のお話をしています。みなさんの大すきな漢字、ひらがなを教えてくださいとお願いしますと、過去最大の書き込みをいただきました。ありがとうございます。こんなに書いてくれるなら、またいつか第2弾してみたいですね。

「命」という漢字が好きという意見が、校長先生の心にささりました。先生は、鳥とか愛、あるいは薔薇なんていう漢字が多いかと思いましたがみんないろいろあっていいですね。

また、この書き方、どうでしょうか。文字は単なる記号ではなく、みなさんの心もあらわしているような気がします。

そう、たぶん先週の異常な暑さも影響していると思います。「暑」という漢字はなくても、みなさんの文字に「暑いなあ」という心がこめられているような気がします。

漢字やひらがななどの文字は、気持ちを伝えたり、情報のやりとりだけでなく、心の様子も伝えてくれるのですね。校長先生もあらためて勉強になりました。

さて、文字にはこのように漢字、そして1年生が最初に習う文字、ひらがな、カタカナ、他に私たちの身に周りにはどんな文字がありますか？

英語、アルファベットもありますね。では、これらの中で一番最初に生まれた文字はどれでしょうか？

実は、この4つの中ではアルファベットが一番古く、今から3500年ほど前にエジプトのあたりでうまれました。ちなみに、アルファベットの最初の文字Aは実は象形文字なのですが、もともとは何の形からできているかわかりますか？

そう、牛なのですね。

漢字が生まれたのは、今から3300年前の中国、「殷王朝」です。その次がカタカナ、少し遅れてひらがながうまれました。このカタカナとひら

がな、二つ合わせた言い方を「カナ文字」と言います。

さて、小学生が習う漢字が約1000、中学、高校で習うのが約1000、だいたい2000字ぐらいの漢字を知っていれば日常生活は可能と言われています。でも、漢字はそれが全てではなく、全部で8万とも10万とも言われ、膨大な数の漢字が実はあります。

これら漢字は一斉にうまれたのではなくて、だんだんと増えていったのですね。あたらしいところでは、「掴む」とか「糲」なんていう漢字は最近できた漢字です。

逆に一番最初にうまれた漢字は何という漢字でしょうか？

少しまわりの人と聞き合ってみてください。

それらの中で、一番最初にできた漢字は、「卜」「占」という漢字と考えられています。というのも、もともと漢字は占いのときに使われたからなのです。

亀が死んだとあとの甲羅に穴をあけ、そこに焼けた鉄の棒を入れると、熱さで甲羅がポクッという音をたててヒビが入ります。

そのときのヒビの形が「卜」で、そのヒビの入りで、今年は暑くなりそうとか、雨が多いみたいなどの予言を書いたそうです。また、そのときの甲羅の割れる音が「ポクッ」というので占いという漢字の音読みは「ポク」なのです。

このように、世界で初めて生まれた漢字は亀の甲羅を使ったので、甲骨文字とよばれます。

ところで、みなさんの国語の教科書には、物語や説明文、詩や俳句なども載っています。この甲骨文字は、さきほどお話しましたように、占いを書き残したのですが、なぜ占いだったのでしょうか。物語でも詩でも、あるいは日記でも、作文でも何を書いてもいいのに、なぜ占いが世界で一番最初の漢字で書かれた文章なのでしょう。

これが今週のお題です。今日も最後まで静かに聞いていただきありがとうございました。